

位下一

祭日 九月九日

社格 (村社)

所在 佐保田村字御靈山(添上郡佐保村大字法華寺)

率川阿波神社

祭神 事代主命

神位 文德天皇仁壽二年十一月辛丑大和國率川阿波神

授從五位下一

祭日 二月十一日酉日

社格 村社

所在 奈良西城戸町(奈良市西城戸町)

今按社地は大和志に西新屋町とあれど神社殿録に當所町人惣年寄の内西城戸町清水源藏か宅地邊即舊地にて同町南裏馬場丁と云は當社の馬場の跡と云とみえたるはたしかなる證と聞え注進狀にもこの地として今人家の宅地内に在て稍く社殿あるのみと云るも打合たれば今此地とさためて記せり

宇奈多理坐高御魂神社

祭神 高皇產靈尊

神位 清和天皇貞觀元年四月十日乙未授法華寺從三位藤

枕高御產稱日神正三位陽成天皇元慶三年六月八日丁卯

授法華寺正三位藤枕高御產稱日神從二位一

祭日 九月十一日

社格 村社

所在 法華寺村字楊梅谷(添上郡佐保村大字法華寺)

今按簡笠(滴谷森種)に古き檢地帳を見侍るに法蓮寺村の佐保殿村と法華寺村との間の田地の字に雨多利とかけが見え侍るは宇奈太利社の舊跡にて侍るべきを社は廢して今は字のみ残りありとあるに因て考るに古へ神社此地にありし時宇奈多理坐高御魂神社と云けんを後に今の地に移したりしにやあらんさて清和天皇の御世頃は既に法華寺域内にてありし故に三代實錄には法華寺云々と申せしにて別に神社ありしには在べからず姑附て後考を俟つ

和爾坐赤坂比古神社

祭神 赤坂比古神

今按舊事記に大國主、神八世孫阿田賀田須命和邇君等祖姓氏錄に和爾古大國主六世孫阿太賀田須命之後也また宗形君大國主、命六世孫吾田片隅命之後也とあるに因て神社殿録に備前國赤坂郡宗形、神社即吾田片隅命にして其地赤坂郡なれば赤坂比古命とも稱し、を其號を以て當國に祭れる也されは備前宗形神社同體なること明らかしと決め又奈良縣注進狀にも同神を祭るとあれば之に従ひて宜しきに似たれ共岡山縣注進狀を檢るに宗形神社祭

祭神

祭日 八月十三日

社格 村社(兩社とも村社)

所在 一座樺木村上治道(添上郡樺木町大字樺木) 一座横田村(添上郡治道村大字横田)

今按社傳二座の内一座は樺木村一座は横田村にあり樺木村の社傳に上治道社は素盞鳴命大國主命稻田姫命また横田村の社傳に下治道社は素盞鳴命稻田比賣日本武尊とあるに因る時は素盞鳴命奇稻田姫命二座を祭れる如く思はるれど孝昭天皇天子天足彦國押人命の族彦姥津命五世孫米餅春大使主命を祭れるものなるべし其は日本紀に天足彦國押人命此和耳臣等始祖也又和耳臣祖姥津命云々新撰姓氏錄に樺井臣和爾部、朝臣同祖彦姥津命五世孫米餅春大使主命之後也和爾部、臣和爾部、朝臣同祖彦姥津命五世孫米餅春大使主命之後也とみえ此神社の一座樺木にあるは樺井臣に由あり横田村の神主の樺井姓なるも亦由縁ありて聞ゆるを思ふに樺井臣和爾部臣の祖神を祭りしものなること決ければ明細帳に記せるは後人杜撰にて何の由縁もなく疑しき故とらず

奈良豆比古神社

祭神 奈良豆比古神

今按社傳に祭神中、南良春日四所左春日若宮神右、矢幡神

穴次神社

祭神 猿田彦命

今按社傳祭神天、太玉、命高皇產靈、神大日靈、命月夜見、命とあれど信かたし神名帳考に兼俱本に穴吹神社、猿田彦命也とある由を記し神名帳頭注にも之に同じきは古傳ありて記せしものならんと思はるれば故れ今之れに従て社傳を改正せり又古史傳に本社を以て笛吹社とせるは非説なればとらず

祭日 十月二十日

社格 村社

所在 古市村字井栗森(添上郡東市村大字古市)

和爾下神社

大和國 添上郡